『UEB ベーシックマスター 英語点訳の基礎』の UEB 規則改訂に伴う内容変更

日本ライトハウス点字情報技術センター

ICEB(国際英語点字協議会)は2019年10月8日、コーテーションマークとアポストロフィに関するUEBの規則改訂を発表した。

これに伴い、『UEB ベーシックマスター 英語点訳の基礎』(福井哲也著、2016年、 日本ライトハウス)で解説した内容が、以下のとおり一部変更となる。

1章2節の「句読符」の表 (p.10) および3章22節の「句読符」の表 (p.158) に掲載した記号のうち、次のものの名称が変更された。

【新しい名称】

[例] "Hello, Jack," said Beth.

(「こんにちは、ジャック」とベスがいった。)

"Uncle sang 'Hey Jude,'" Sue wrote.

(「叔父さんが『ヘイ・ジュード』を歌った」とスーは書いた。)

アメリカでは、外側にダブルコーテーション、内側にシングルコーテーションを使うことが多く、イギリスでは逆に、外側にシングル、内側にダブルを使うことが多い。上の例はアメリカ式であり、イギリス式では次のようになる。

[例] 'Uncle sang "Hey Jude," 'Sue wrote.

外側にシングル、内側にダブルのコーテーションマークが使われている文章は、文章 全体にわたりシングルとダブルの点字記号を入れ替えて点訳することが許容される。こ のようにしたときは、点訳書凡例等で説明するとよい。

[例] 'Uncle sang "Hey Jude," 'Sue wrote.

2章 15 節の「書きましょうスペシャル」(p.117) の最後の部分の書き方が変更となる。 すなわち、「解答集」p.29 下から 3 行目は次のようになる。

about "horse" and "hoarse," you know.'

《参考》2マスのダブルコーテーションマーク : こへ は、ダブルコーテーションの開き記号が単語の途中にあって疑問符と区別できないなど、特別の場合に用いることとなった。

[例] Franc"e"s

《付記》シングルコーテーションマークとアポストロフィの使い分けについても、この 度の UEB の規則改訂で一部修正されたが、本書で取り上げている内容の範囲に変更は ない。